

韓国の国立災難安全研究院（NDMI）と台風委員会防災作業部会（TC・WGDRR）との共同DRRワークショップを開催しました（2024/9/26）

テーマ：災害リスク、DRR、災害管理技術、国際交流
会場：東北大学災害科学国際研究所 セミナー室（1F）

2024年9月26日、防災実践推進部門・2030国際防災アジェンダ推進オフィスの小野裕一教授と災害医学研究部門・災害医療情報学分野の朴慧晶助教は、東北大学災害科学国際研究所のセミナー室で、韓国の国立災難安全研究院（NDMI：National Disaster Management Research Institute）、台風委員会防災作業部会（WGDRR：Working Group on Disaster Risk Reduction）と国際交流共同ワークショップを開催しました。このワークショップは、Capacity Building/Knowledge Sharing in DRR（Disaster Risk Reduction）のタイトルで、防災に関わる知識や経験、研究および政策と技術についての意見交換とより効果的な協力関係を構築することが目的でした。

ワークショップの話題提供者と内容は、以下の通りです。

- ・小野 裕一 教授：日本の災害・災害研究・災害科学国際研究所の概要
- ・朴 慧晶 助教：学際的アプローチの研究紹介
- ・Nguyen Thanh Tung氏（ベトナムの国家防災庁）：ベトナムでの堤防システムの現状と堤防河川による洪水対応
- ・キム・キョンジュン博士（NDMI）：韓国の新災害危険要素の理解と評価
- ・チョイ・スンヨン博士（NDMI）：災害フォレンジック調査と活動
- ・リ・チホ博士（NDMI）：早期警報システムのチャレンジ

議論の中で、新たに出現している防災の課題をどのように解決するか、各国での防災の課題とそれに対する解決策はなにがあるかなどについて、白熱した議論が展開されました。また、現時点での韓国と日本での防災におけるトレンドや様々な課題について議論しました。これをきっかけに、今後対象国・地域に実際に適用できるような、より実践的な防災対策を考え実装できるように、国際交流を続けていくことが重要であると思いました。



参加者の集合写真

文責：小野 裕一（2030国際防災アジェンダ推進オフィス）
朴 慧晶（災害医療情報学分野）